

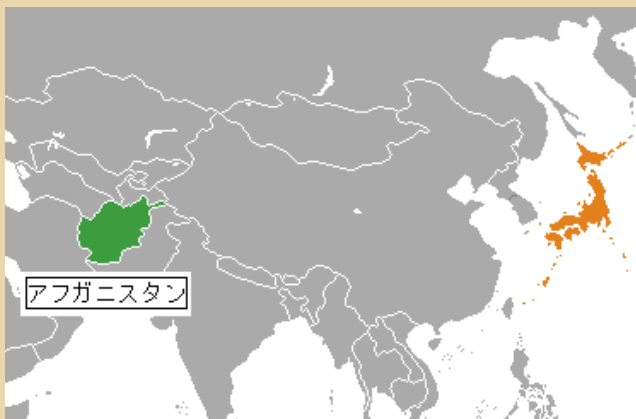
支援対象国

アフガニスタン・イスラム共和国



南アジアと中央アジアの狭間に位置する多民族国家・アフガニスタンでは、1970年代のソ連侵攻以来紛争が続いており、復興と安定への道のりはまだまだ遠いといわれています。

とりわけ深刻なのは保健医療事情です。紛争によって医療施設が破壊されたり、病院が閉鎖に追い込まれている現状に加え、地理的に孤立した地域の存在や医療従事者の不足が、国民の保健医療へのアクセスを極端に低下させています。世界保健機関（WHO）によると、人口の85%が医療施設まで3～4時間かかる場所に暮らしています。



これまでのご支援、誠にありがとうございます。

赤十字の活動は皆さまからのご寄付で支えられています。

目標額：年間1,000万円

皆様のご支援で、例えば・・・

■献血ワークショップ1回 4,000円

■HIVエイズシンポジウム1回 7,000円

4つの都市で73,500人(男女比1:1)に健康教育を普及する予定です！

ご協力方法



郵便局・各金融機関

全国の郵便局、その他取扱いのある金融機関で寄付できます。



インターネット

クレジットカードやPay-easyで寄付できます。

日赤 海外たすけあい

検索



特設サイトへ



窓口

日本赤十字社の各都道府県支部、赤十字病院、献血ルーム、NHK各放送局などから寄付できます。

その他

SoftBank スマートフォンの利用料金の支払いと一緒にできる寄付やファミリーマートにある情報端末「Famiポート」を使っての寄付、Yahoo!募金やAmazonのサイトからも寄付ができます。

アフガニスタン 地域保健強化事業



孤立した地域では基礎的な保健医療サービスすら手に入らないことも©IFRC

〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3

日本赤十字社 <http://www.jrc.or.jp>

TEL:03-3437-7089 (国際部 開発協力課)

2018年4月作成



人間を救うのは、人間だ。Our world. Your move.

国の隅々まで支援を届けたい ～人道の空白を作らないために～

赤新月社が国民にとっての“命綱”

国民が保健医療にアクセスしにくいアフガニスタンでは、34の地域に支部を置き、全国的なネットワークを築いている赤新月社が、国民にとっての命綱となっています。

アフガニスタン赤新月社の使命は「ほかの誰も支援を届けられない人々のためにこそ活動する」。

赤新月社クリニックを運営し、辺境地域に保健医療サービスを提供しているほか、保健省と協力して医療従事者の育成に取り組んでいます。そのほか、支部に医薬品を備蓄したり、巡回診療を行うことで、人々の保健医療サービスへのアクセスを向上させています。



アフガニスタン赤新月社クリニックの助産師©IFRC

人々の意識を変える大切さ

人々の健康を守るには、保健医療サービスを提供するだけでなく、個々人が「自分たちの健康は自分で守る」という意識をもつことがなによりも重要です。

意識を変えるには、まずは正しい知識を得ることから。何が健康を脅かすのか、どうすればそれを防ぐことができるのか。アフガニスタン赤新月社は、その大切さを地道に普及し続けています。国民にメッセージを伝えるのは、アフガニスタン赤新月社の明日を担う青少年クラブのメンバーです。

日本赤十字社が支援するのは、まさにこの草の根の活動。正しい知識を普及し、人々の意識と行動を変えることを目指します。

現地からの声

僕の名前はアミヌラといいます。

僕は家族から、献血はとても危

険だと教えられてきました。でも、アフガ

ニスタン赤新月社が主催するワークショップに参加して、献血が安全なこと、輸血を受けることで人の命が救われることを学びました。ワークショップは僕の人生を変えてくれました。今では僕も赤新月青少年クラブに入り、周りの人に正しい知識を伝える活動を続けています。



赤新月…イスラム教の国々は、キリスト教を連想させる十字の代わりに新月(三日月)を採用しています。どちらの標章もそれぞれに何ら宗教的意味はありません。

具体的には・・・



まずは青少年クラブの立ち上げから。明日を担うメンバーを増やします！

“献血は危険”という意識が根強い国。率先して献血し、安全性を伝えます。



HIV・エイズや肝炎について熱心に学ぶ。彼らが地域住民への健康教育の担い手です。

文化的に繊細なテーマでも、女性同士なら話し合えます。女性メンバーの育成を強化！

